

広報係を職場体験中の中学生記者がいつしよに取材します!!

# 絵金がつなぐ人



6月17日(水)から3日間、市役所の秘書広報係で職場体験をする野市中学校3年生黒瀬さんと美濃さん。間もなく迎えるお祭りの季節に、合併して広くなった自分たちのまちのお祭りの紹介に挑戦します。

香南市にはいろいろなお祭りがありますが、今回スポットを当てるのは毎年7月第3土日曜日に開催される赤岡町の「絵金祭り」です。

## 絵金祭りの思い出

小学生の時、初めて行った絵金祭りは楽しかったけど怖かった。通りのおちろこちろ、家の前に並ぶショッキングな絵の屏風。露店やおしゃべりに夢中のふりをして、できるだけ見ないようにしていたっけ……。でも、うそそくの灯りが照らし出す怖いその絵は、とてもキレイでたくさんの人に囲まれていた。

なんで、家の外に絵を飾るお祭りができたんだろう。この絵を描いた「絵金さん」ってどんな人だったんだろう。どうして、こんなに「ワウ」ってフシギな絵を描いたんだろう。

全国的にも有名で、毎年たくさん観光客で賑わうというお祭りなのに、友だちの中には行ったことがないっていう子も多い。自分たちが住んでいるまちのことなのに、行ったことのないイベントや知らないことがたくさんあるんだなあ……。

と、いうことで二人の中学生記者の取材がスタートしました。

まずは、二人の中学生記者を紹介いたします

香南市立野市中学校3年2組：吹奏楽部



**黒瀬 千尋**  
Kurose Chihiro

今、自分が絵金の一番伝えたいことが伝わるように、頑張りたいです。

香南市立野市中学校3年5組：バレエ部



**美濃 茉夢**  
Mino Mayu

学んだことや感じたことを精一杯伝えたいです。みんなが笑顔になりますように!^^

おのおの方  
しっかりと  
働かれよ~



## と祭り

知っていた方がオモシロイ!

### 幕末土佐の町絵師・金蔵

絵師金蔵を略して「絵金」。通称・絵金は一八一二年、現在の高知市はりまや町に髪結いの子として生まれ、金蔵と命名されました。幼いころから画才に秀でていた金蔵は、たちまち頭角を現し、二十一歳の若さで土佐藩の家老桐間家の「御用絵師」とりたてられました。ところが、金蔵の輝かしい出世は反感とねたみを買ひ、身に覚えのない「偽絵描き」の汚名を着せられ、御用絵師の座を解かれて城下追放に処せられてしまいます。

### 赤岡と絵金

江戸時代の赤岡の町は廻船問屋や商工業が栄えた町でした。



当時、赤岡商人は氏神の須留田八幡宮や立山神社などの祭礼に、上方役者を招き宮芝居や地芝居を盛んに催していたそうです。その旦那衆の一人で盛大に廻船業を営んでいた宮谷氏に金蔵の叔母が嫁いでいました。

一城を追われ、放浪の果てに叔母のもとに身を寄せた金蔵は、庶民のエネルギーの源であった祭りのために歌舞伎や浄瑠璃を題材にした芝居絵を描くようになりました。そして、町絵師としてのたぐいまれな才能が花開き、通称・絵金が誕生したのです。

絵金の描く芝居絵を商家の旦那衆をはじめまちの人たちは競い合うように注文し、身の丈六尺(約180cm)の大男だった彼は酒蔵をアトリエに、両手の指に六本の筆をはさんで持ち、芝居絵屏風を一日で描き上げたと言われています。

### 絵金を見せる二つの祭り

- 御用絵師：主君から絵画の注文(御用)を受ける画家。身分が保証され「禄(給料)」を受けた。
- 町絵師：町人として描いた絵を売って生活する画家。



まちの旦那衆がこぞって絵金に描かせた屏風絵は、赤岡の須留田八幡宮や立山神社の大祭に奉納するためのものでした。菅宮にあたる七月十四日に商家の軒先に並べられるようになったのは、江戸時代の末期のことです。

そのころ、海に面した高知県では、お盆の時期に海から悪霊がやってくると言われていました。そして、赤色が古来より魔除けの力があると信じられていたことから、海辺に近い赤岡のまちでは、家々の軒先に絵金の血赤と呼ばれる赤色で描かれた屏風絵を並べ、家内安全・無病息災を願う風習が始まりました。

「須留田八幡宮の宵宮」の祭りは、今もかつての姿を守り、百数十年の間変わらない形で続いています。現在、親しまれている「絵金祭り」は、商店街の発展を願う「須留田八幡宮の宵宮」にならって始められた新しいお祭りです。

